

* 事前に学んだ事

臨床心理士とは、「心の問題」の増加に伴い、その解決を図るために、援助を施すもの。ただし、国家資格ではない。最近注目され始めた職業であるため、まだまだ職業人口が少ない。資格を取得するためには、大学院を経て、その後1年以上の心理臨床経験が必要とされる。そして最後に資格審査(年1回の筆記・口述試験)に合格する必要がある。また資格取得後も5年毎に資格更新を行わなければならない。

・ 臨床心理士が働いている職場

└ 教育の分野：教育研究所、教育センター

医療・保健：病院、精神保健福祉センター

福祉の分野：児童相談所、女性相談センター

司法・矯正：家庭裁判所、少年院、刑務所、保護観察所

労働・産業：企業内の健康管理室、公共職業安定所

・ 臨床心理士による援助の方法

└ 臨床心理アセスメント：面接・観察・各種の心理検査により、その人のことをよく理解しどのような援助が適切であるか判断

└ 臨床心理面接：必要に応じて、様々な臨床心理学的専門技法を用いながらこころの問題に対する援助を行う

└ 臨床心理的地域援助

└ 臨床心理学的研究

※ 心理カウンセリング

=遊戯療法、箱庭療法、芸術療法、精神分析、夢分析
来談者中心療法、行動療法、家族療法、動作法など

* 設備・活動内容

東京都文京区本郷のビル内にある。

臨床心理士会は、学校で言う生徒会のようなもので、国民の心
の健康と福祉の増進に関する諸事業や相互研修のための研究会
などを開催している。

また、犯罪被害者や自死遺族の人々のケアをするための電話相
談室を開いたり、保険や補償制度の提供をしている。

海外で災害支援を行う臨床心理士も在籍している。

臨床心理士の活動の幅は年々広がりつつあり、労働・産業系で
は、ハローワーク・企業内相談室、司法・法務系では法務省や
少年院、教育系の大学や中学校、独立した相談室などさまざま
な部門のさまざまな仕事をしている。

今現在、臨床心理士は国家資格として認可されている状態では
ありません。そのため、臨床心理士会では国家資格として認可
を得るための運動を行っている。

* 訪問をして学んだ事

- ・ 臨床心理士の資格所有者の数が都道府県ごとに格差があること(ちなみに兵庫県は992人と多い方である)
- ・ 国家資格ではないので、仕事をする上で他の職業の方々との併用が時々困難であるということ
- ・ 活躍の場がとても多いということ(児童相談・介護・スクールカウンセラー...)
- ・ 人の相談を受けお金をいただくという商売としてのカウンセリングはなかなか難しいということ
- ・ 多くの人々が日本だけでなく世界で臨床心理士として働いているということ(最近では中国の四川大地震の時に日本から臨床心理士を派遣した。)

* 成果のまとめ(感想)

実際に訪問してみて、

- ・ 担当者の方が実体験を交えて話してくださったので現場の雰囲気を感じる事ができた。
- ・ 臨床心理士という仕事に関して具体的な理解を深める事ができた。
- ・ 人の心に真正面から向かい合うこの仕事の難しさを改めて知った。
- ・ 仕事内容を聞いて、あまりの奥深さにこの職業に対する見方が変わった。
- ・ 精神的にハードな職業だと思い込んでいたが、本人の気の持ちようでどうとでもなるということが分った。
- ・ スライドを用いながらひとつひとつ丁寧に説明してくださったので凄く分りやすかった。
- ・ 事前に抱いていた疑問などを解決する事ができた。
- ・ 時々出てくる心理学の専門用語の意味がわからなかった。きちんと質問していればよかった。



